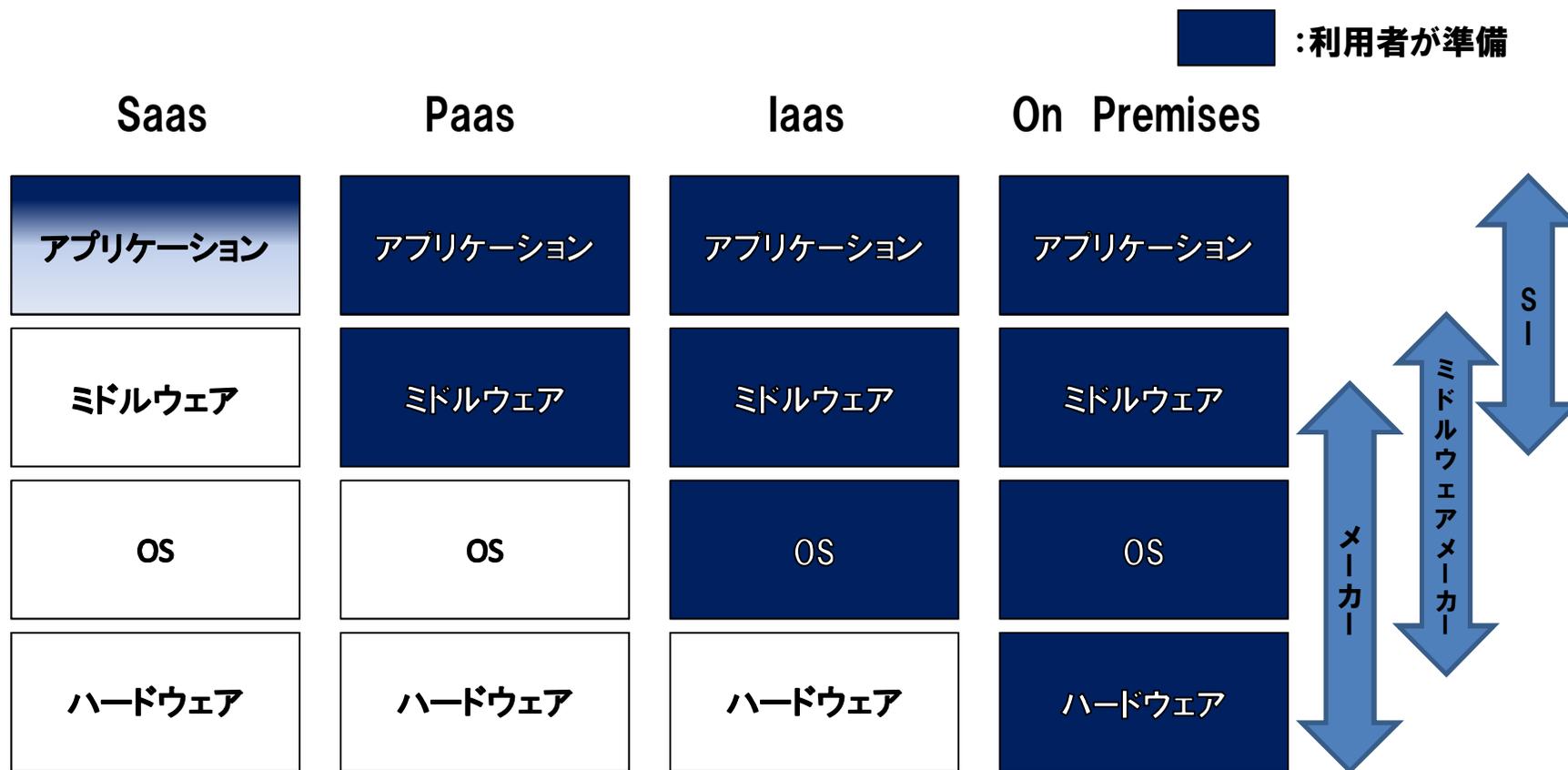


# 情報サービス産業の構造変化に 影響を及ぼす利用者側の動向

2015年3月25日

一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会  
専務理事 金 修

# XaaSやOSSの影響



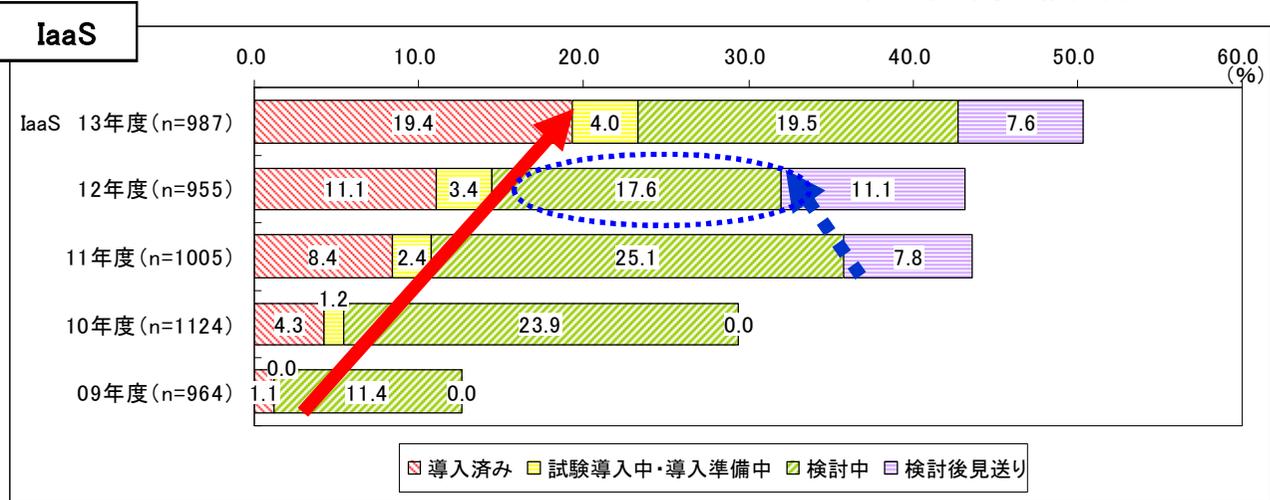
★情報サービス産業はどのエリアを主戦場とするか？！

# IaaS、PaaS導入状況トレンド

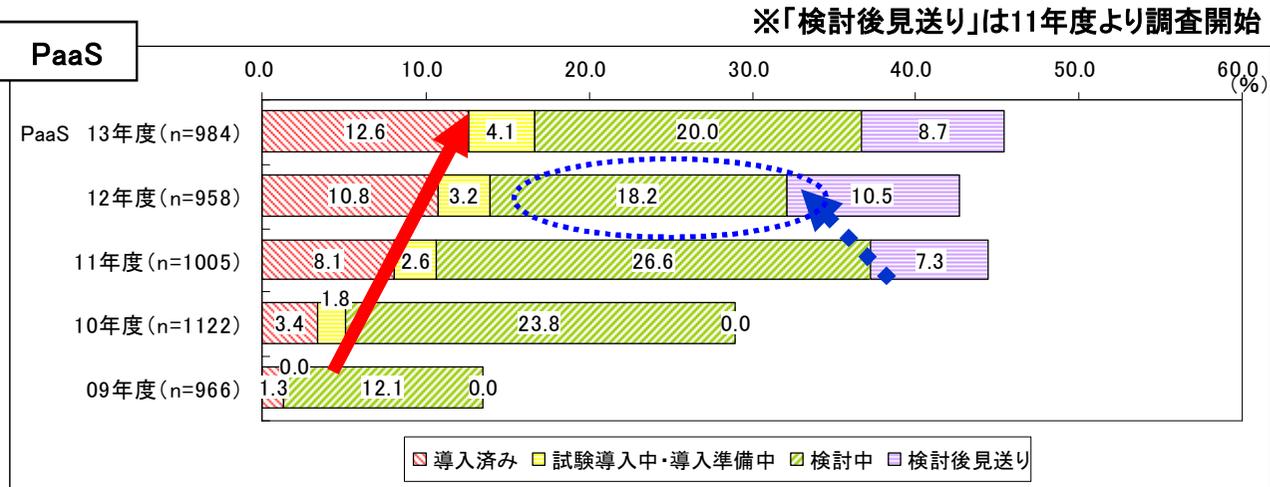
IaaSは踊り場から利用へと加速する。一方PaaSはIaaSほどの伸びはなし。いずれも5年間、導入済み企業は順調に増加。  
 企業IT動向調査報告書2014より

## 年度別 パブリッククラウド (IaaS、PaaS) 導入状況

・IaaSでは前回調査(12年度)に比べて「導入済み」の割合が8.3ポイント、「検討中」は1.9ポイント増加。前回は、導入の伸びが鈍ったことから踊り場にあると見ていたが、今回の調査では利用する方へ加速しているといえる。

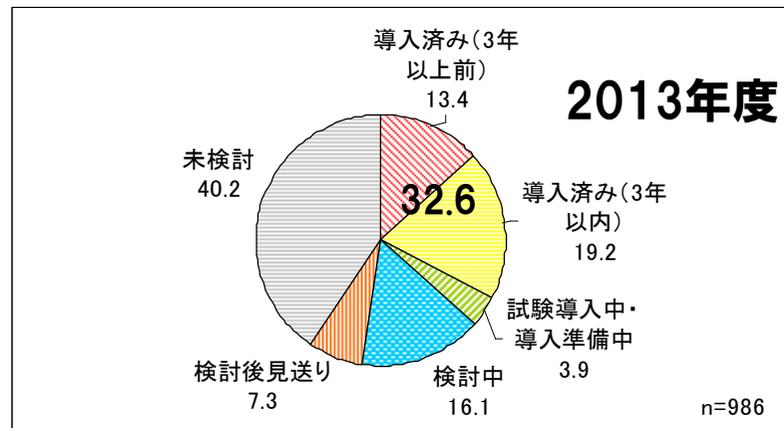


・一方PaaSは、導入済み企業は前回より増加(1.8ポイント増加)しているものの、IaaSほどの伸びはない。導入は進んでいるものの、勢いは鈍い。

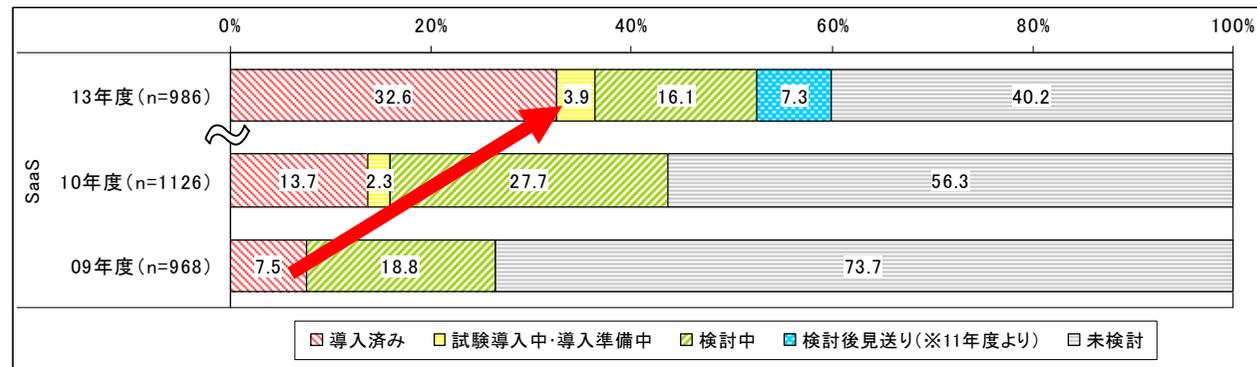


# SaaSの利用状況

SaaSの利用状況については、32.6%の企業が導入済みであった。先に示した「IaaS・PaaS導入状況トレンドのIaaS(19.4%)、PaaS(12.6%)」に比べると、SaaSの利用が進んでいる状況である。なお、参考までに同様の調査を行った11年度、10年度調査と比較すると、導入の広がりが明らかである。



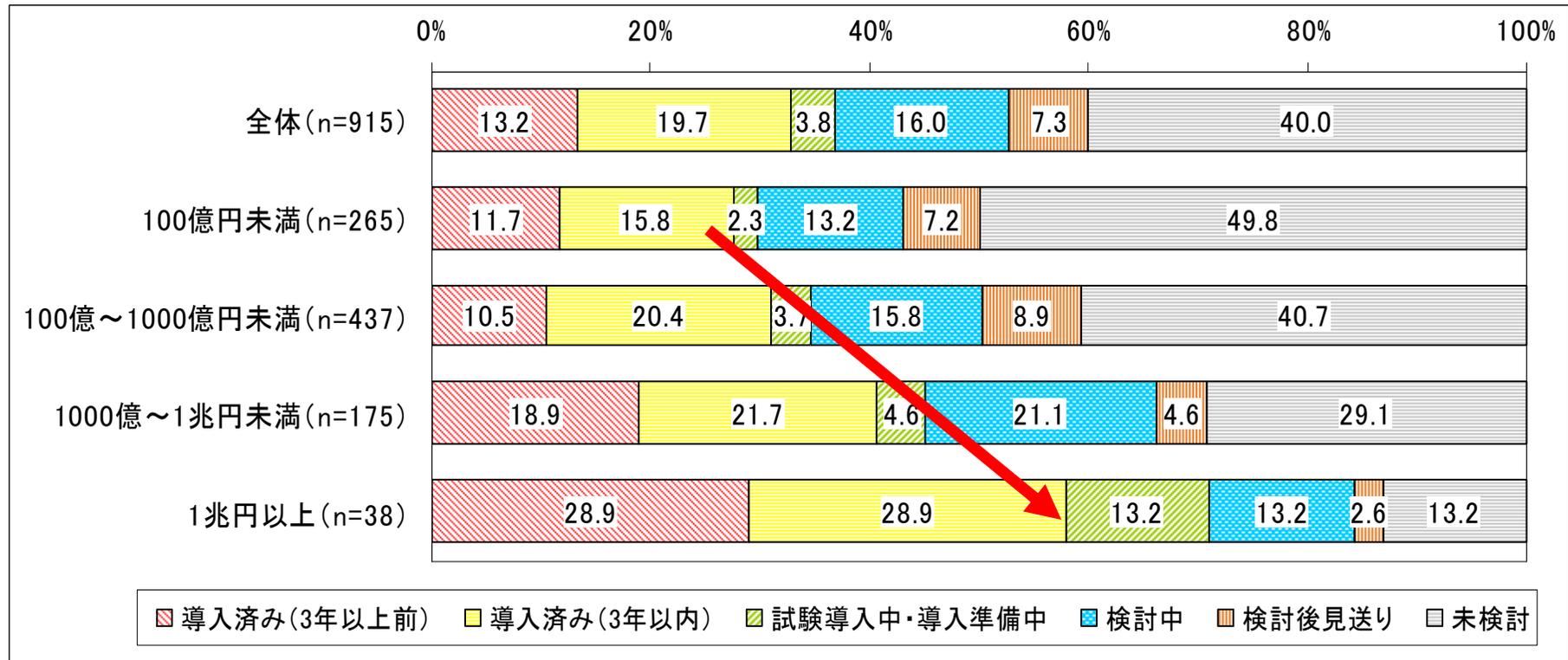
企業IT動向調査報告書2014より



# 売上高別SaaS導入状況

SaaSの利用状況について売上高別に見てみると、大企業ほど利用が進んでいる状況であった。大企業では様々なシステムを保有しており、システムの特성에応じてIT基盤の使い分けをしていると考えられることから、SaaSの利用に適したシステムにおいては前向きに利用していると推測される。

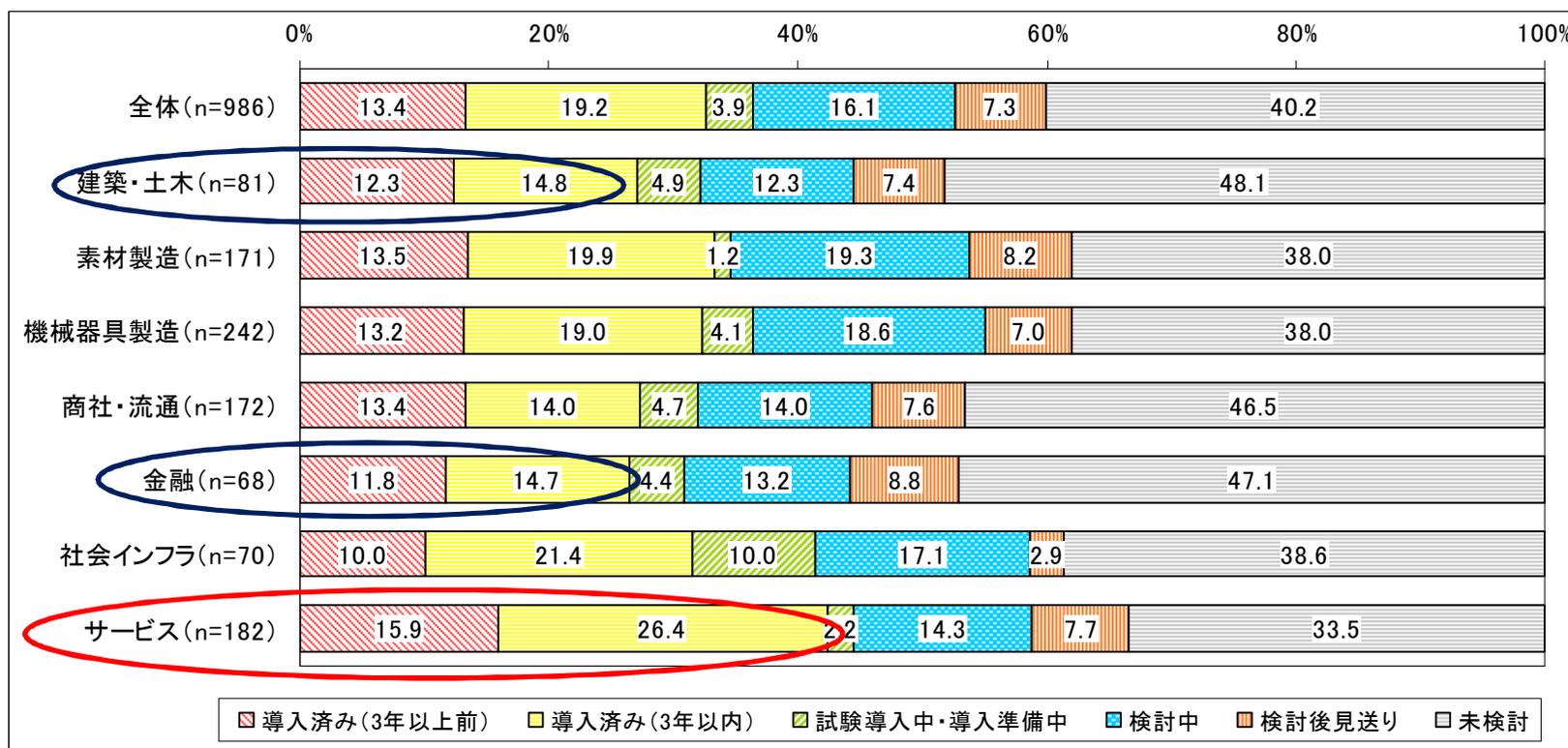
企業IT動向調査報告書2014より



# 業種別SaaS導入状況

「導入済み(3年以上前)」と「導入済み(3年以内)」の割合の合計は、サービス(42.3%)が最も高かった。スピーディにお客さまへサービスを提供するサービス業での利用が進んでいるようである。一方、金融(26.5%)、建築・土木(27.1%)の利用は少なかった。

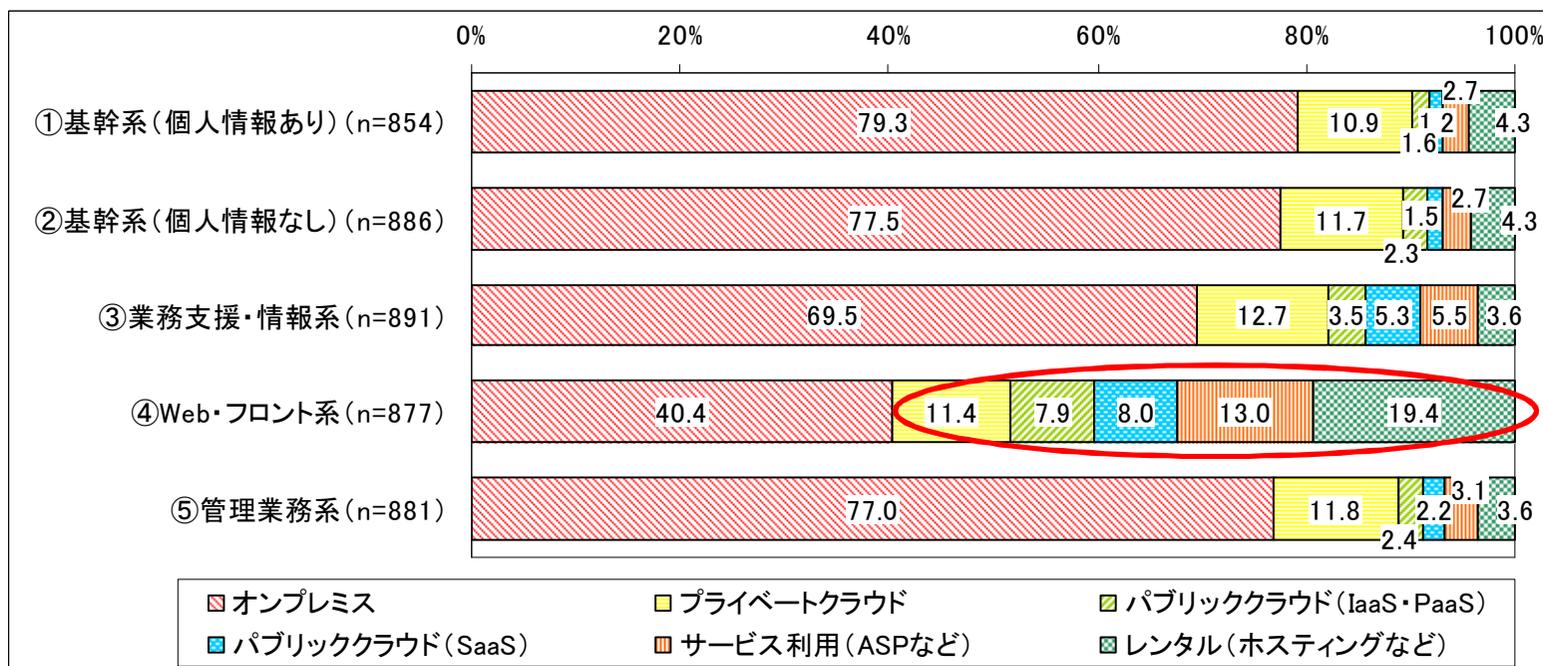
企業IT動向調査報告書2014より



# 業務システムで利用しているIT基盤は

業務システムで利用しているIT基盤は、1位の回答を見るとWeb・フロント系のシステムを除き8割前後がオンプレミスを利用しているとの回答であった。依然としてオンプレミスの利用が主流であるようだ。また、基幹系において個人情報あり・なしによる違いはほとんど見られなかった。一方、Web・フロント系はオンプレミスの利用を1位に挙げている企業が40.4%であり、他の業務システムに比べると低い。パブリッククラウドやサービス利用を1位に挙げる割合も、他のシステムよりも高く、用途や目的に応じて幅広いIT基盤も比較的に利用している状況であった

企業IT動向調査報告書2014より



★これからのIT投資領域はどこか？！

# 基幹系クラウド化の先駆け？(二大航空会社の例)



amadeus  
Your technology partner

2011年5月30日

## ANA、国際線予約システムを業界大手アマデウス社と契約

～グローバルシステムを導入し、お客様の利便性を更に追求～

2011～12年度 ANAグループ経営戦略で掲げている「グローバル化への挑戦」「経営効率向上の実現」の具現化の一環として、お客様の利便性向上とITコストの削減を実現すべく、ANAは Amadeus IT Group, S.A. (本社:スペイン、以下アマデウス社) と国際線予約システムに関する契約を5月19日に締結いたしました。

本年6月から開発検討に着手し、2015年度下期からの導入を目標に国際線の予約・搭乗システムをアマデウス社が保有・管理するシステムに移行いたします。

### (1) お客様利便の更なる向上

#### ① スターアライアンス各社および提携パートナーとのシステム連携の強化

他のエアラインとシステムが共同であることを活かし、運航イレギュラーが発生した場合でも、他のエアラインへの予約を自動でお取りするなど、お客様の旅程の再編が速やかに可能となります。

#### ② きめ細かいサービスを提供

様々なシーンでお客様の属性に応じたサービス提供が可能となります。また自動化の促進により、係員の業務のシンプル化が可能となり、お客様との接客がよりスムーズなものになります。

### (2) 年間10億円以上のITコスト削減

現行、ANAは国際線予約システムを自社保有しておりましたが、アウトソーシングすることにより、システムの利用頻度(旅客需要の変動)に応じたコストの変動が可能となります。



JAPAN AIRLINES

JAL GROUP NEWS

## JALグループ、旅客サービスシステムにアマデウス社Alteaを採用

2014年7月31日

第 14093号

JALグループは、「2012～2016年度 JALグループ中期経営計画」において、ITシステムの更新を通じて、業務の効率化や高度化に向け取り組むこととしています。

このたび、旅客サービスシステム(\*1)刷新において、Amadeus IT Group, S.A. (本社:スペイン、以下「アマデウス社」) (\*2)との間で、同社が所有する「Alteaシステム (以下:「アルテア」) (\*3)を利用することに合意しました。

現在、JALグループでは国内線・国際線の旅客サービスシステムをそれぞれ自社で保有していますが、今後3年程度を目途に、これらを「アルテア」にアウトソーシングする予定です(\*4)。

「アルテア」へのアウトソーシングのメリットは以下のとおりです。

### 1. 国内線/国際線のシステムプラットフォームを統合

お客さまのご予約情報を「アルテア」に一元化することで、国内線と国際線の乗り継ぎがよりスムーズになります。また、「アルテア」の導入により、ワンワールド各社のシステムとのさらなる連携強化が可能となります。

### 2. グローバルシステムへのアウトソース

「アルテア」へのアウトソースにより、各国の運賃制度の変更時など、これまでJALが個別に対応する必要があった機能が基本サービスとして提供されるようになり、世界のマーケットの変化により迅速に対応できます。さらに、固定費化しているシステム費用を、搭乗旅客数に連動した変動費とすることで、システム維持管理費用を低減します。

JALグループは、ITシステムの更新を通じて、これからも商品・サービス品質の向上に挑戦し、お客さまの利便性向上とさらなるサービスの拡充を図ってまいります。

\*1 旅客サービスシステム: 航空券の予約・発券・搭乗などをかさざり、航空会社の旅客事業を支える基幹システムの総称。

\*2 アマデウス社: スペイン・マドリッドに本社を置く世界規模の旅客サービスシステムのプロバイダー。

\*3 Altea(アルテア)システム: アマデウス社が提供する航空会社向け旅客サービスシステム(予約・発券・搭乗など)のトータルソリューション。

\*4 今般刷新するシステムは航空会社としてのシステムであり、日本地区のJAL国際線販売において旅行会社に利用いただくシステム((株)アクセス国際ネットワーク(JALグループ企業提供)に変更はありません。日本地区のJAL国際線販売は、引き続き(株)アクセス国際ネットワークのシステム利用を推奨します。

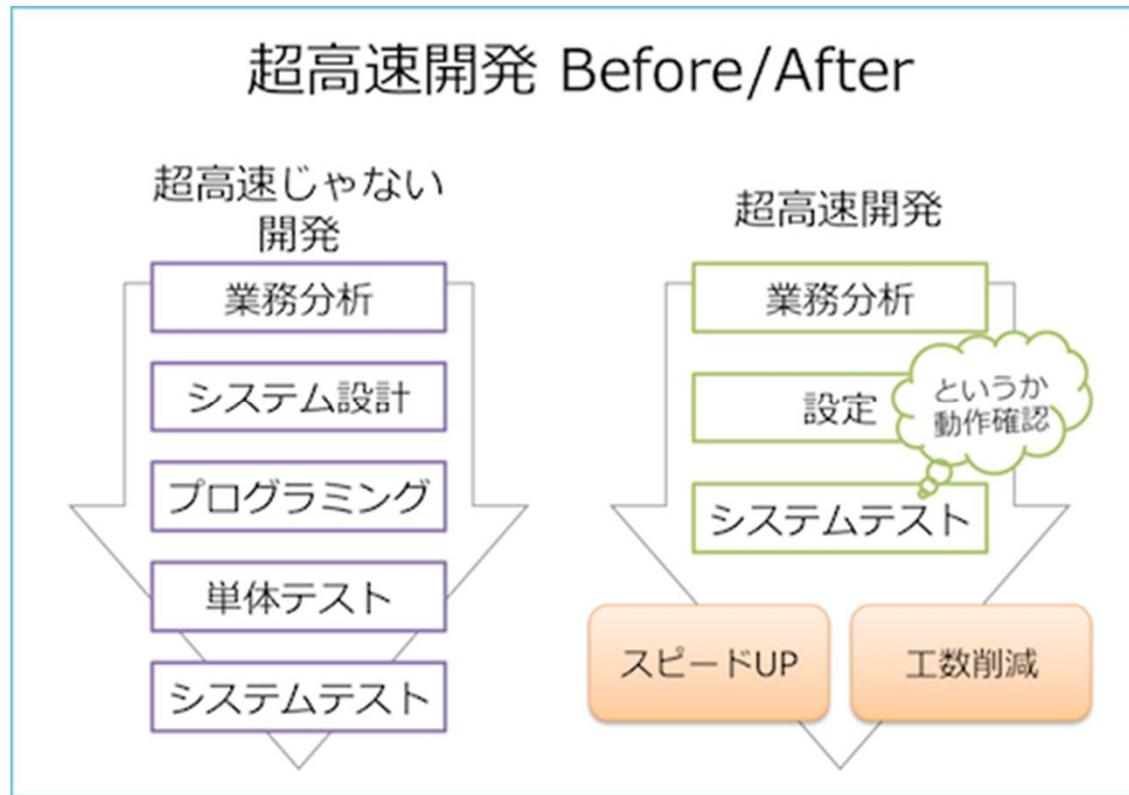
以上

ANA広報室 03-6735-1111 成田 0476-34-7042 羽田 03-5757-5548 伊丹 06-6856-0270 関西 072-456-7342

A STAR ALLIANCE MEMBER



# 超高速開発ツールの争い？

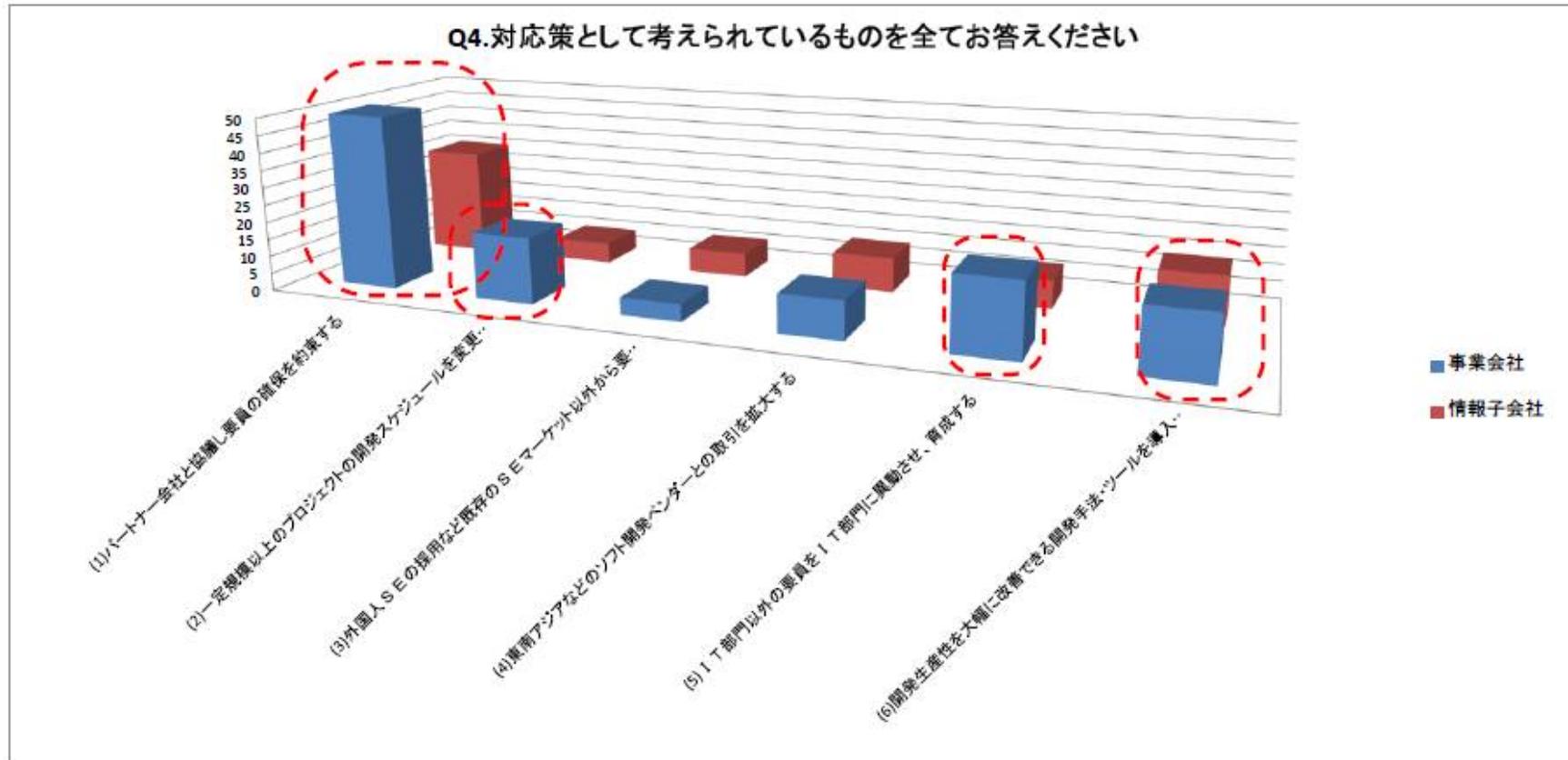


出典：<http://www.questetra.com/ja/blog/cat-improvement-tips-ja/xrad-for-isdep/>

- ★ユーザIT部門および子会社の人材育成はどこを目指す？！
- ★Slerはどのフェーズで収益化を計るのか？！

# 人材不足リスクへの対応策

・JUASフォーラムメンバー(IT部門長、子会社役員)に緊急アンケート

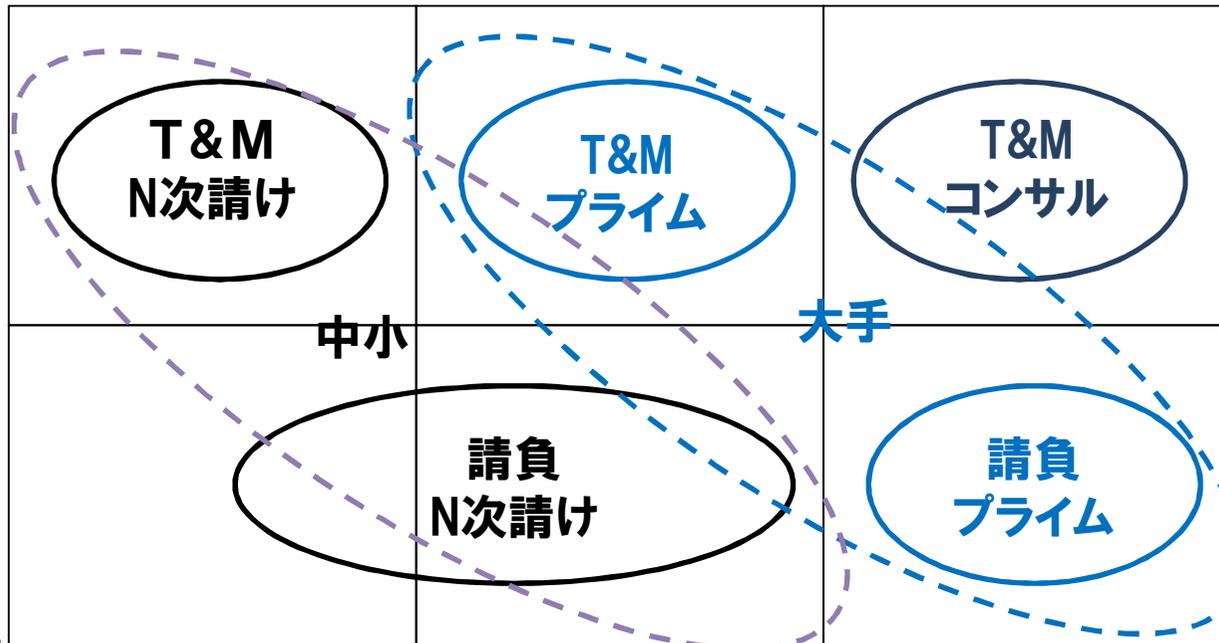


★パートナー会社と協議し、要員の確保を約束する(要員補強型)

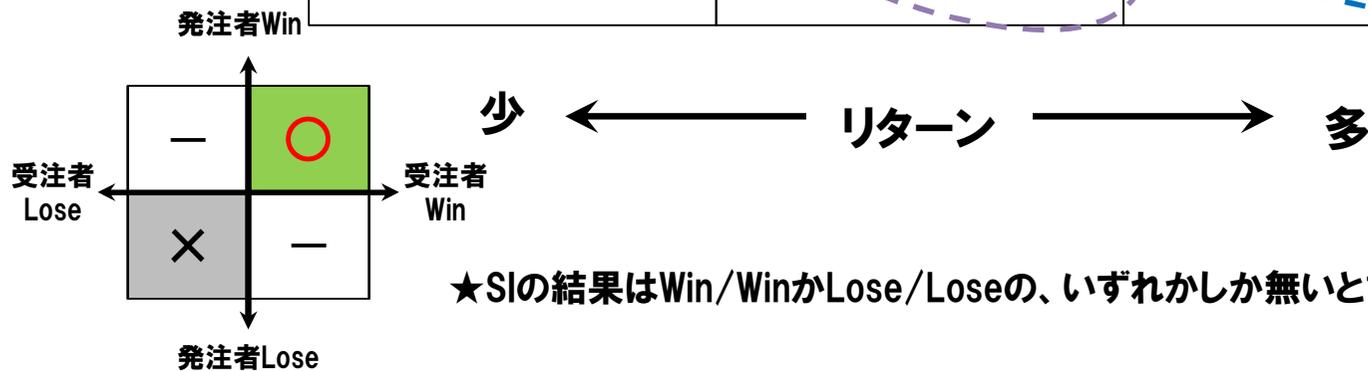
★開発生産性を大幅に改善できる開発手法・ツールを導入(生産性向上型)

# 契約形態別ポートフォリオ(SI)

T&M: Time & Materials



低  
↑  
リスク  
↓  
高

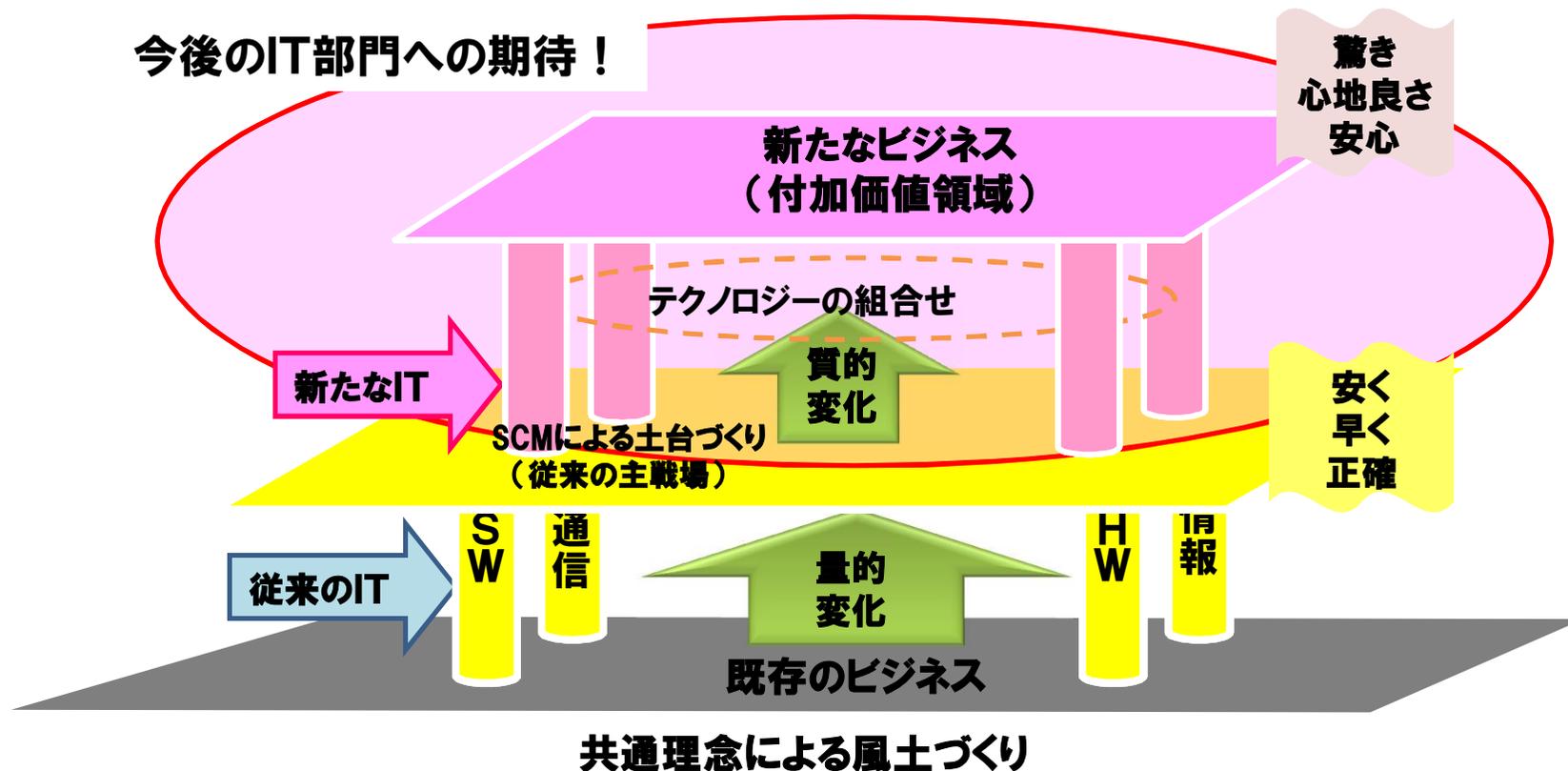


# 競争優位・付加価値創出を目指して！

-JUASアドバンス研究会 Future' 20 競争優位・付加価値創出モデル研究会報告書より-

- ✓ 持続的な競争優位とは、強固なSCM舞台の上に新たなIT領域での柱を建て、顧客に期待以上の感動を与えること。!
- ✓ 付加価値の創出とは、今までの常識でビジネスを設計しないこと。!
- ✓ そのひとつとして、ビジネス vs ITという役割を超えて、両者がこんな世界を実現したい (Wants)という未来志向(先回り)が重要。!

今後のIT部門への期待！



# バリューアップのための企画力・創造力アップを



出典: [http://kawa.at.webry.info/201109/article\\_1.html](http://kawa.at.webry.info/201109/article_1.html)

## ハッカソン

## スタンフォード大学 D思考スクール



出典: <http://blog.btrax.com/jp/2012/07/22/dschool/>